



2026年3月期 上期決算説明会資料

株式会社FRONTEO 証券コード 2158

2025年11月14日

CONTENTS

01	決算ハイライト	3
02	ライフサイエンスAI事業	10
03	リスクマネジメント事業	20
04	DX事業	24
	Appendix 会社案内	

01 決算ハイライト

2026年3月期 通期連結業績予想を上方修正

- 通期連結業績予想売上高を7,700百万円に上方修正(+700百万円)。リスクマネジメント事業の減少をライフサイエンスAI事業とDX事業の増加が補う
- ライフサイエンスAI事業：下期は黒字化見込み。AI創薬分野の共創プロジェクトが当期のKPIを既に超過するなど、想定を上回る受注ペースで進捗
また、創薬エコシステムの構築も進展しており、非連続成長の為の戦略も着実に進行
- DX事業：BI・プロフェッショナル支援分野との一体運営を通じた、高付加価値な統合型DXソリューション提供を推進。株式会社アルネット(以下アルネット)による顧客基盤の拡大に注力した戦略が奏功

	FY25 期初予想	FY25 修正予想	対前回予想比	増減率
(百万円)				
売上高	7,000	7,700	700	10.0%
（ライフサイエンスAI事業）	700	1,000	300	42.9%
（リスクマネジメント事業）	4,200	4,100	▲ 100	▲2.4%
（DX事業）	2,100	2,600	500	23.8%
営業利益	700	700	0	0.0%
（ライフサイエンスAI事業）	▲ 210	▲ 100	110	-
（営業利益率）	-	-		
（リスクマネジメント事業）	790	650	▲ 140	▲17.7%
（営業利益率）	18.8%	15.9%		
（DX事業）	120	150	30	25.0%
（営業利益率）	5.7%	5.8%		
経常利益	715	715	0	0.0%
当期純利益	615	615	0	0.0%

2026年3月期 上期 経営指標

- 連結売上高は、ライフサイエンスAI事業及びDX事業がけん引し、営業利益は、期初計画通りに下期偏重で進捗
- 営業損失の主要因は、リスクマネジメント事業リーガルテックAI分野の米国事業撤退費用、M&A関連費用、LSAI事業の先行投資費用

連結業績		ライフサイエンスAI事業	
売上高	3,375百万円 進捗率 43.8%	売上高	273百万円 進捗率 27.4%
営業利益	▲5百万円	営業利益	▲216百万円
EBITDA	196百万円	リスクマネジメント事業	
		売上高	1,935百万円 進捗率 47.2%
		営業利益	149百万円
		DX事業	
		売上高	1,165百万円 進捗率 44.8%
		営業利益	60百万円

2026年3月期 上期 連結業績および進捗

- | ライフサイエンスAI事業：売上高は前年同期比約2倍に成長。今後の事業拡大及び体制強化を目的とした人材投資を先行したことにより費用増
- | リスクマネジメント事業：リーガルテックAI分野の米国事業撤退により売上高・営業利益が減少した一方、経済安全保障分野は前年同期比二桁成長
- | DX事業：アルネットの買収効果により売上高・営業利益が大幅な増収増益

連結損益計算書

	(百万円)	FY24 上期	FY25 上期	前年同期比		FY25 修正予想	進捗率
				増減	変化率		
売上高		3,144	3,375	230	7.3%	7,700	43.8%
(ライフサイエンスAI事業)		139	273	134	96.0%	1,000	27.4%
(リスクマネジメント事業)		2,850	1,935	▲ 915	▲32.1%	4,100	47.2%
(DX事業)		154	1,165	1,011	656.2%	2,600	44.8%
売上原価		1,379	1,768	389	28.2%	-	-
売上総利益		1,765	1,607	▲ 158	▲9.0%	-	-
販売費及び一般管理費		1,475	1,612	136	9.3%	-	-
営業利益		290	▲ 5	▲ 295	-	700	-
(ライフサイエンスAI事業)		▲ 122	▲ 216	▲ 93	-	▲ 100	-
(リスクマネジメント事業)		378	149	▲ 229	▲60.5%	650	-
(DX事業)		33	60	27	80.9%	150	-
経常利益		295	▲ 23	▲ 318	-	715	-
当期純利益		206	▲ 73	▲ 279	-	615	-

* 2026年3月期よりセグメント変更しております。2025年3月期の売上高、営業利益などの項目は、変更後の区分方法により作成したものです。

2026年3月期 上期 連結業績および進捗

- | 現預金の減少・負債の増加は、アルネッツ買収の影響が主な要因
- | 自己資本比率は、39.1%

連結貸借対照表

(百万円)	25/3	25/9	25/3比	
			増減	変化率
資産の部				
流動資産	4,003	3,585	▲ 417	▲10.4%
現預金	2,598	1,847	▲ 751	▲28.9%
売掛金及び契約資産	1,025	1,185	159	15.6%
貸倒引当金	▲ 5	▲ 9	▲ 4	-
その他流動資産	383	561	178	46.4%
有形固定資産	299	371	71	23.9%
無形固定資産	824	2,095	1,271	154.3%
ソフトウェア	432	546	114	26.4%
のれん	-	1,218	1,218	-
投資その他の資産	1,340	1,988	648	48.4%
資産合計	6,466	8,040	1,573	24.3%
負債・純資産の部				
流動負債	2,844	3,399	554	19.5%
固定負債	394	1,296	902	228.6%
純資産	3,227	3,344	116	3.6%
負債・純資産合計	6,466	8,040	1,573	24.3%

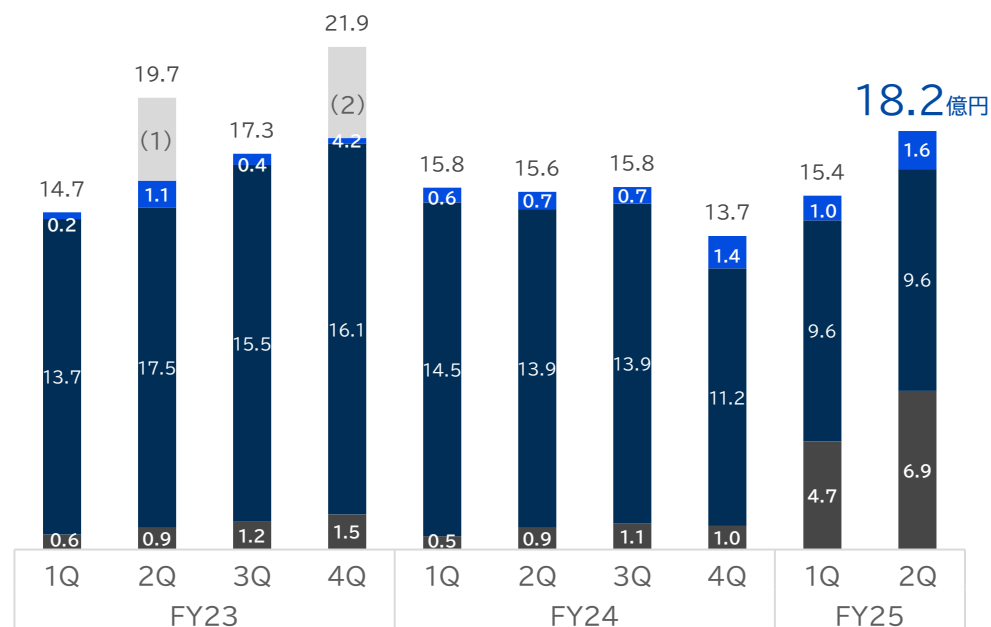
四半期毎の売上高・営業利益の推移

- ライフサイエンスAI事業やDX事業といった注力領域への転換が順調に進行
- リーガルテックAI分野の米国事業撤退一時費用、M&A関連費用を起因とする第1四半期の営業損失から、第2四半期ではライフサイエンスAI事業(AI創薬分野)やリスクマネジメント事業(経済安全保障分野、リーガルテックAI分野)の収益改善により損益分岐点を超過

連結売上高

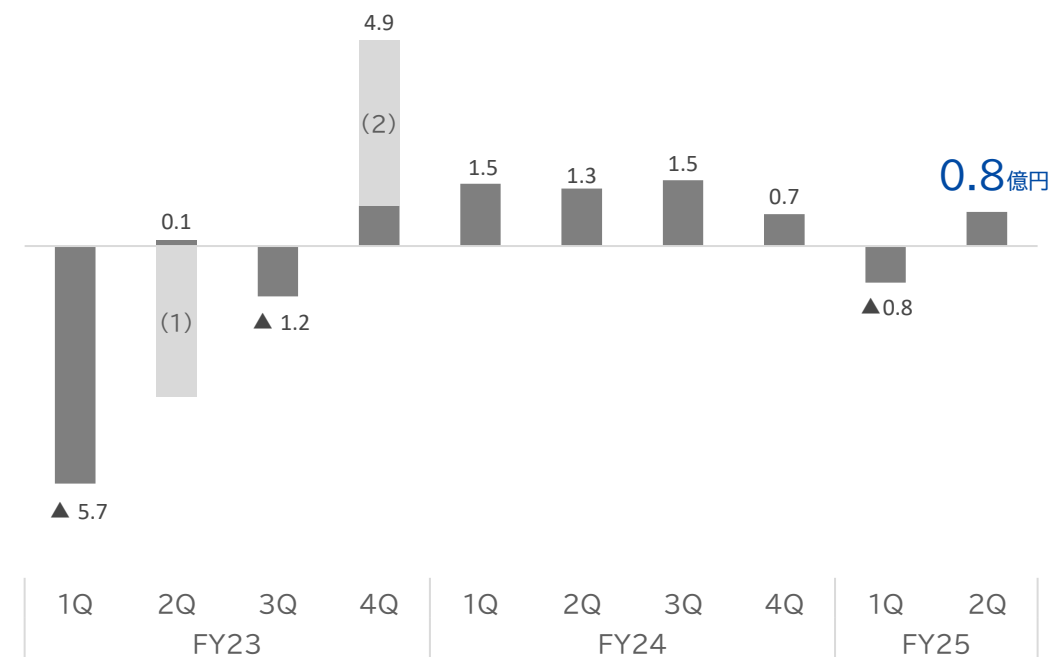
(億円)

- ライフサイエンスAI事業
- リスクマネジメント事業
- DX事業



連結営業利益

(億円)



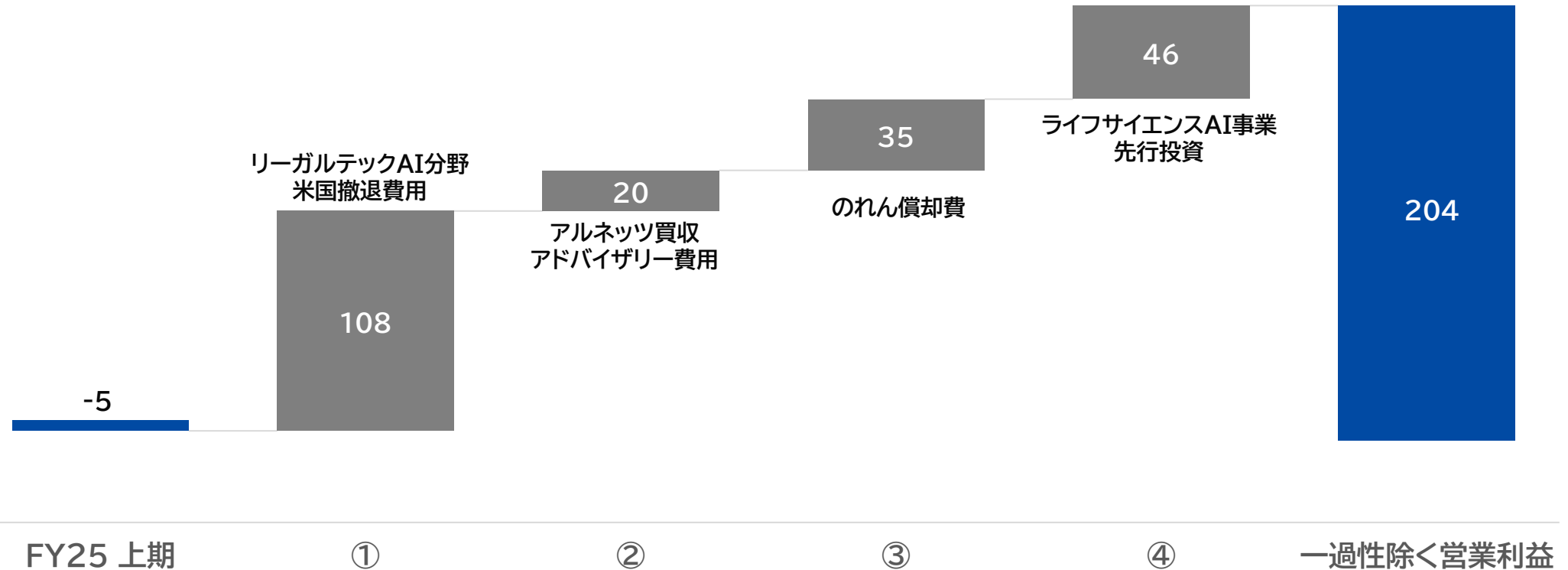
(1) リスクマネジメント事業: 大型案件ライセンス買取による収益を一括計上 (2) AI医療機器契約一時金の一部を計上

* 2026年3月期よりセグメント変更しております。2024年3月期及び2025年3月期の売上高、営業利益などの項目は、変更後の区分方法により作成したものです。

上期営業損失の要因

- ｜ FY25 上期の営業損失は、業績予想に織り込み済みのリーガルテックAI分野の米国撤退費用が主な要因
- ｜ ライフサイエンスAI事業のAI創薬分野への先行投資を実施
- ｜ 2025年4月に子会社化したアルネッツ買収にかかる、一過性のアドバイザリー費用と、のれん償却費等の影響

(百万円)



02 ライフサイエンスAI事業

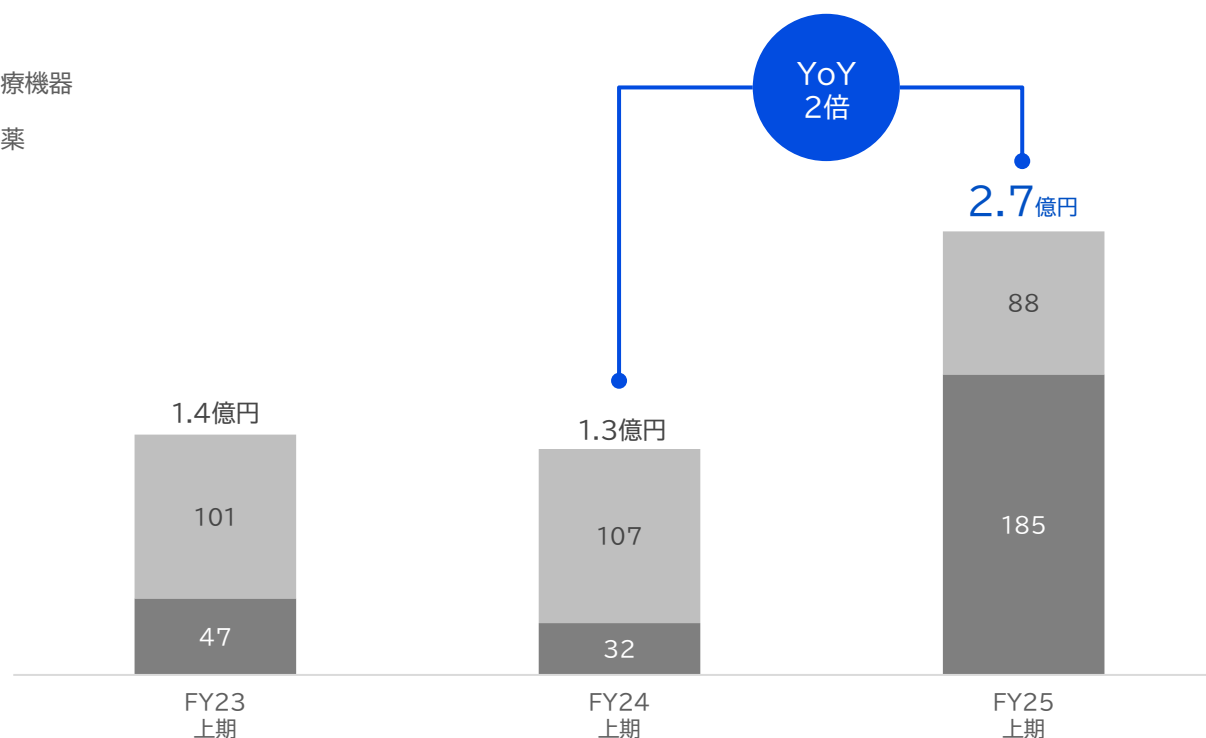
ライフサイエンスAI事業 売上高

- AI創薬分野のAI創薬支援サービス“Drug Discovery AI Factory(DDAIF)”は、POCを中心とした案件から共創プロジェクト※案件へ移行し着実に案件を積み上げ。また契約時に発生するアップフロント収益だけでなく研究進捗に応じたマイルストーンやロイヤリティフィーなど収益構造は多様化し、プロジェクト単価の向上を見込む
- AI医療機器分野において、塩野義製薬との「認知症・うつ病の診断支援AIプログラム事業に関する戦略的業務提携契約」における「会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器(SDS-881)」の製造販売承認取得及び社会実装に向けた開発は計画通りに進捗。将来的には製品上市後の販売額に応じたロイヤリティ等による中長期的な安定成長を見込む

売上高

(百万円)

- AI医療機器
- AI創薬



※共創プロジェクトとは、製薬企業と当社の研究チームが協調し、検証済標的の獲得までを目指す形態

ライフサイエンスAI事業 AI医療機器・非医療機器 パイプライン

- | AI解析による会話型の「あたまの健康度」判定Webアプリケーション「トークラボKIBIT」を10月1日から提供開始
- | 「会話型 認知機能検査用AIプログラム医療機器(SDS-881)」について、臨床試験を開始。2026年度の承認取得を目指す
- | 他疾患を対象としたアライアンス及び非医療機器の産業横断アライアンスの協議が進行中

アライアンスのパイプライン



塩野義製薬とFRONTEO AI解析による会話型の「あたまの健康度」判定 Webアプリケーション「トークラボKIBIT」を提供開始

株式会社FRONTEOと塩野義製薬株式会社は、AI解析による会話型の「あたまの健康度」*判定Webアプリケーションサービス「トークラボKIBIT」を共同開発し提供を開始いたします。
*「トークラボKIBIT」の「あたまの健康度」とは、AIが会話中の文脈のつながりと語彙の多様性を解析し、記憶力・言語理解力・情報処理能力を総合的な指標としてスコア化するものです。疾病の診断を目的としたものではありません。

■提供背景

超高齢社会とも呼ばれる日本において、認知機能の維持・向上は重要な健康課題の一つです。日本国内における65歳以上の高齢者が総人口に占める割合は、1950年の4.9%から一貫して上昇が続いており、2024年には過去最高の29.3%になっています。認知機能は加齢に伴って低下することが知られており、このような人口構成の変化もあり、今後より一層、認知機能の維持・向上にむけた対策が重要になることが想定されます。

近年では、健康的な生活習慣が、中高年者のエピソード記憶*に良い影響を与えることや、身体活動が認知機能低下リスクを低減すること**などのエビデンスが蓄積されています*。これらの知見により、認知機能の維持・向上にむけた、生活習慣の見直しや健康への意識が高まっていくことが想定されています。

「トークラボKIBIT」は、生活者が日常会話を通じて簡単に利用できるあたまの健康度セルフチェックツールとして、生活者が自身の状態を日常的に把握することで健康に関する意識向上を促し生活習慣改善や健康寿命の延伸に貢献することを目的としています。

*エピソード記憶：個人の体験を時間や場所とともに思い出す記憶

**資料：F. Sofi et.al. J Intern Med. 2011 Jan;269(1):107-17, Ping Wang et.al. BMC Public Health. 2024 Oct 28;24(1):2977

なお、本契約における各社の役割は以下の通りです：

・ 塩野義製薬：サービス開発・事業構築・ FRONTEO：AI解析技術の提供・運用

トークラボ KIBIT



*本サービスは診断を行うものではありません。

【トークラボKIBITについて】

「トークラボKIBIT」は、FRONTEOが自社開発した特化型AI「KIBIT(キビット)」の自然言語処理技術を用いて、会話の中の単語や文章の関係性や特徴を解析し判定結果を提示します。加えて、判定結果に基づきユーザーに行動変容を促すメッセージや生活習慣の改善につながる情報を提供いたします。

「トークラボKIBIT」は、スマートフォンで即時利用可能、アプリのダウンロード不要、AIとの会話を通じて即時判定が可能であり、ライフサイエンスに特化した信頼性の高い解析技術を活用しており、日本および米国で9件特許を取得しております。

■ トークラボKIBITのしくみ

■ トークラボKIBITは「あたまの健康度」を判定*するWebアプリケーションです。

■ AIとの会話を解析することで判定*します。



*疾病の診断や予防を目的としたものではありません

ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 Drug Discovery AI Factory(DDAIF) 沿革

- 2023年7月のDDAIF開始以来、特許に裏付けられた技術がPOCでその実績を認められ、製薬企業等との共創プロジェクトへ発展
- FY25は、DDAIFを核とした「FRONTEO共創型創薬エコシステム」を開始し、多様な共創パートナーとの革新的医薬品の創出を目指す



※公開可能PJのみ記載

ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 自社研究/共同研究から共創プロジェクトへの発展

｜ FY25より自社研究・共同研究を起点とした活動に注力

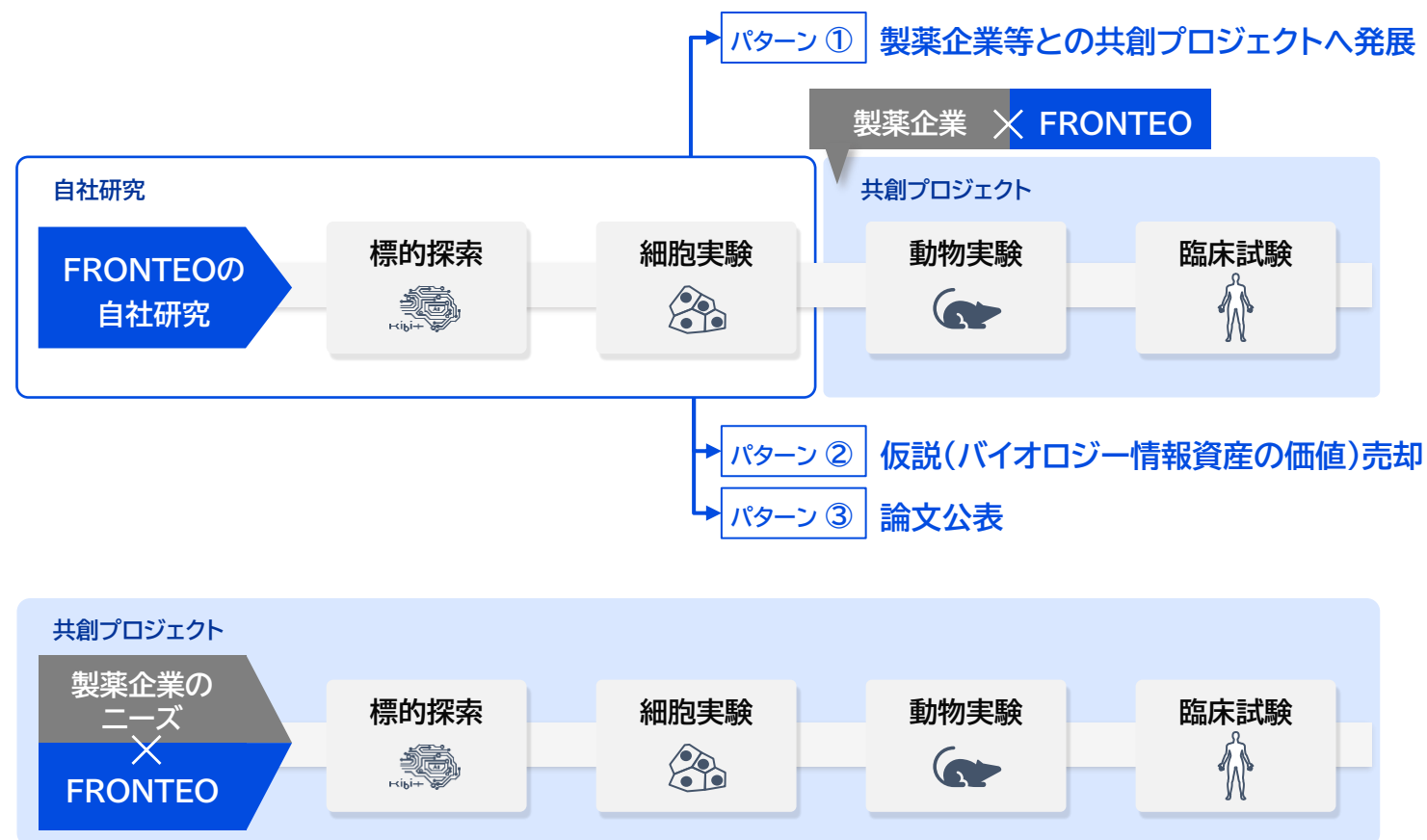
｜ 得られた研究成果は論文・学会を通じた公表だけでなく共創プロジェクトへの発展や標的因子の売却を通じた収益化を狙う

共創プロジェクト
の起点自社研究
パイプライン

- ・ 自社研究は中間成果に応じて複数の出口を持つ可能性がある
- ・ 成果をもとに製薬企業等へプロジェクトの打診を行い、連携開始が「共創プロジェクト」の起点となる
- ・ 共創プロジェクトに進まない場合の出口として、仮説(バイオロジー知見の価値)売却や論文発表などが想定される

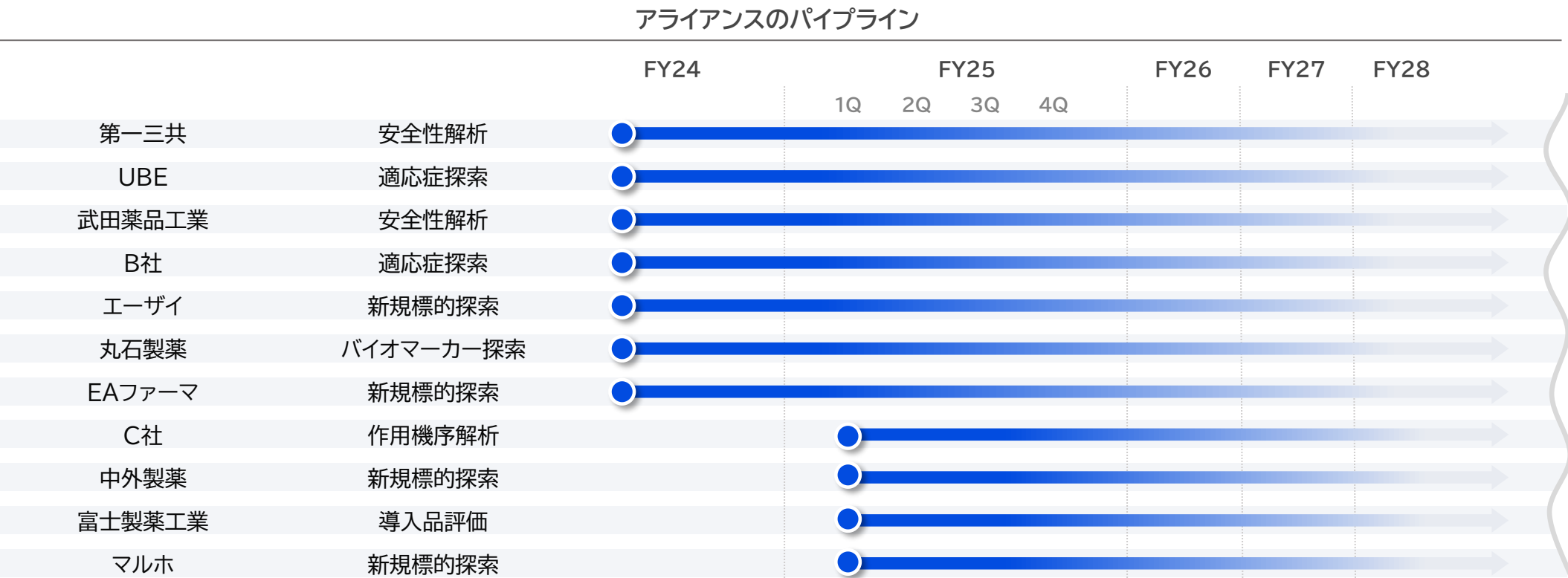
製薬企業等
のニーズ

- ・ 製薬企業が掲げる疾患領域や治療ニーズを出発点とする
- ・ ニーズに応じたテーマ設定を行い、協働で仮説構築・標的探索を推進
- ・ 以後の検証実験・候補評価までを共創フレームで継続的に実施



ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 パイプライン①

| AI創薬支援サービスDDAIFの実績が積み上がり、FY25通期でのKPI10件※に対し14件受注しており、進捗率140%達成



※ライフサイエンスAI事業のAI創薬分野のステージ4達成に向けてのKPI

ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 パイプライン②

足元では製薬企業のみならず、アカデミアや創薬ベンチャー企業も加えたエコシステムを強化する取組みにより、顧客基盤を強化・拡大し、共創プロジェクトに向けた協議が複数進行中

アライアンスのパイプライン



ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 自社研究/共同研究パイプライン

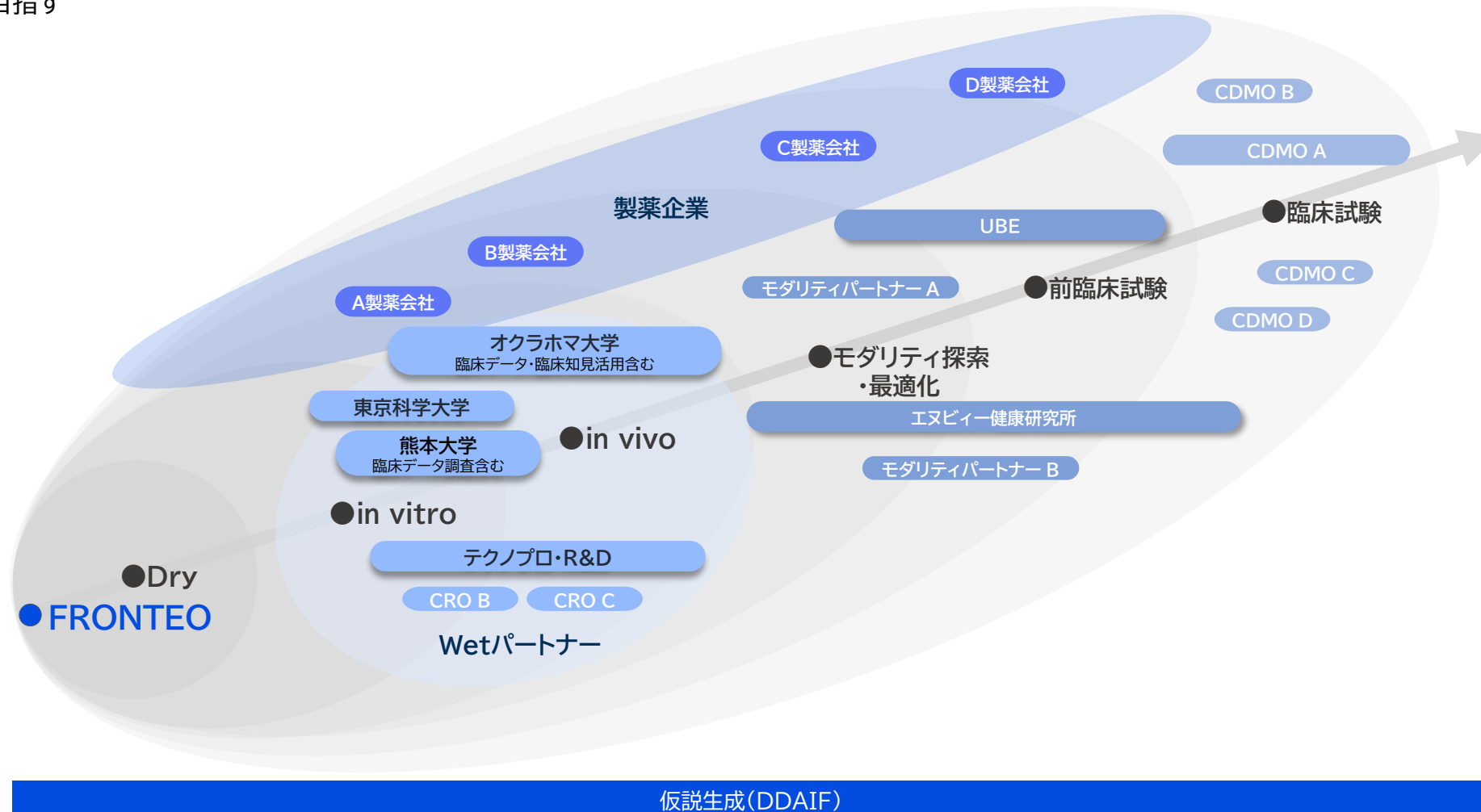
- 中長期的な収益化を視野に入れた、研究テーマを複数進行中
- 足元、すい臓がんの標的を複数の製薬企業との契約に向けて交渉中
- 創薬における仮説生成とバイオロジー深化を通じて、製薬企業等との共創を推進

自社研究/共同研究パイプライン

	研究テーマ	疾患領域	現ステージ	パートナー	今後の展望
公開済	新たながん治療法探索に関する共同研究	—	FRONTEOがDDAIFの解析手法を活用し、特定のがん種に対して治療効果のある既存薬を抽出し、熊本大学が細胞実験や動物実験、臨床データの調査などを通じて仮説の検証を行う		
	マイクロバイオーム創薬の共同研究	—	マイクロバイオームサイエンスに関するデータベース情報をDDAIFで解析し、腸内細菌の作用や、疾患との関連性の探索手法の開発、マイクロバイオーム創薬への応用可能性などを検証		
	新規標的分子候補の細胞増殖抑制に対する効果検証	すい臓がん	新規性の高い標的遺伝子の候補17個を抽出、in vitrolにて、がん細胞の増殖抑制試験を行い、一定の効果を確認	オクラホマ	標的候補に対して作用するメカニズムを解明 薬を構成する化合物の獲得や、動物実験での有効性の確認を目指す 足元では、複数の製薬企業との契約に向けて交渉中
	創薬シーズの創出及び製薬企業への導出	対象疾患検討中	2026年1月より研究開始	UBE	
未公開	研究テーマA	疾患A	自社での検証を 鋭意注力中		—
	研究テーマB	疾患B			—
	研究テーマC	疾患C			—
	研究テーマD	疾患D		X社(協議中)	—
	研究テーマE	疾患E	特許出願検討中	Y社(協議中)	—

ライフサイエンスAI事業 AI創薬分野 FRONTEO共創型創薬エコシステムの将来像

- FRONTEOの独自テクノロジーを起点に、各分野のスペシャリストとのアライアンスを形成し、エコシステムを構築。ワンストップで対応可能に
- 「日本を再び創薬の地へ」という理念のもと、医薬品産業を自動車、半導体に次ぐ基幹産業へと成長させ、薬を必要とするすべての人に適切に届くフェアな世界の実現を目指す



03 リスクマネジメント事業

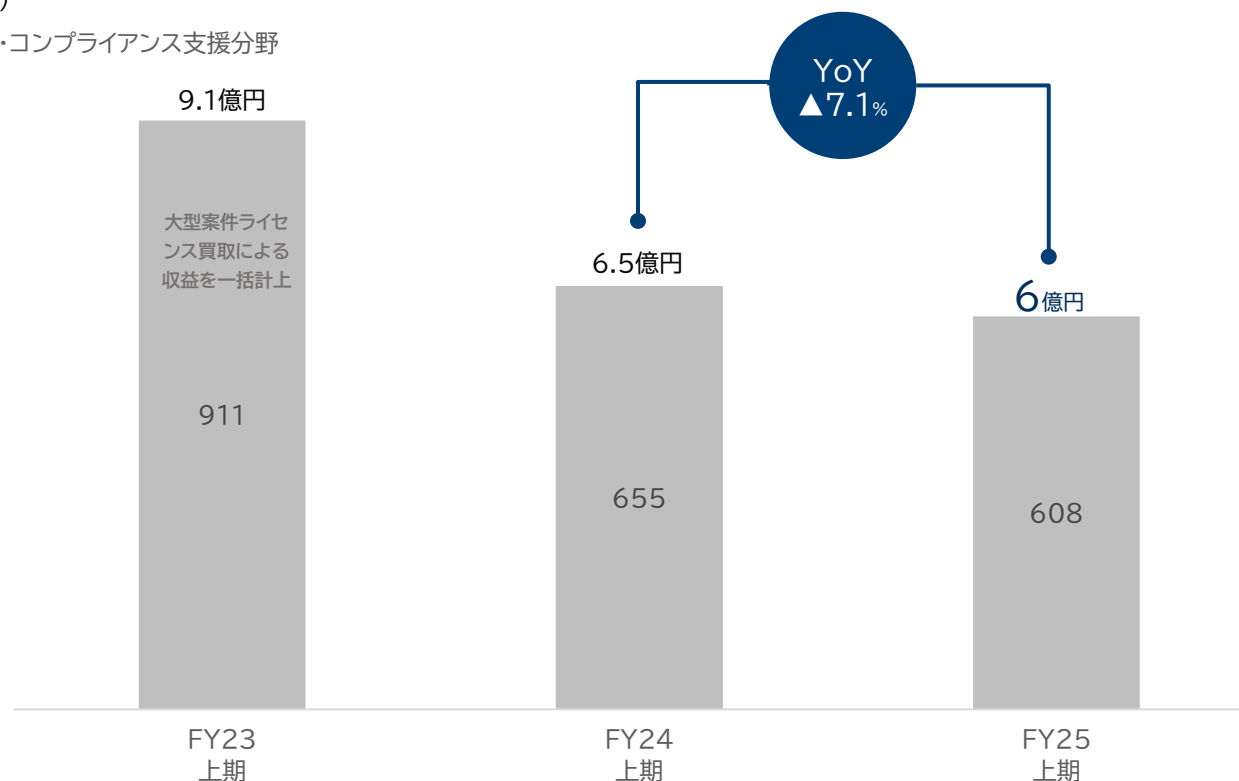
リスクマネジメント事業 BI・コンプライアンス支援分野 分野別売上高

- | 売上高は前年同期比7.1%減
- | リカーリング収益は堅調に推移したが、新規案件の積み上げが前年同期比減少
- | 足元では、金融領域を中心としたAI監査の高度化及び監査対象範囲の拡大ニーズを起点とした収益拡大に注力
- | 中長期的な顧客基盤強化及び収益の拡大に向け、情報漏洩、人権問題、品質不正等の社会的重要度の高いテーマにおける需要の取り込みを推進

売上高

(百万円)

■ BI・コンプライアンス支援分野



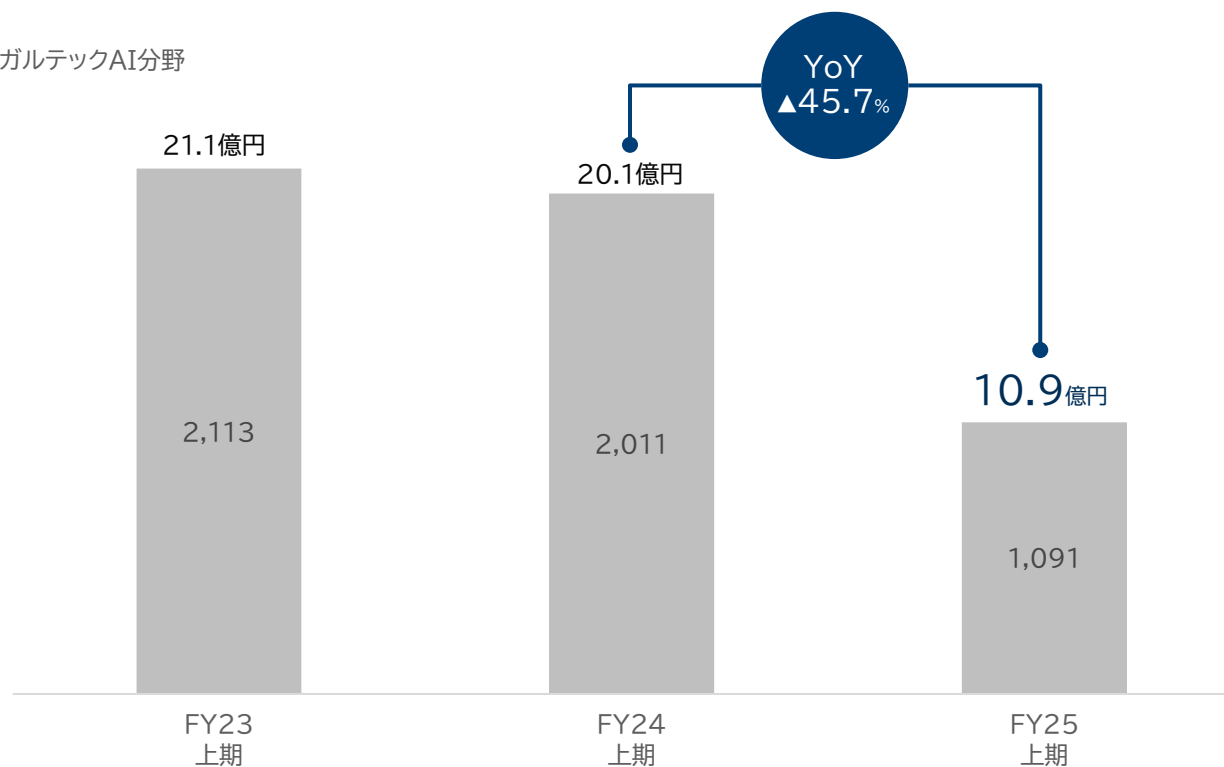
リスクマネジメント事業 リーガルテックAI分野 分野別売上高

- 売上高は前年同期比45.7%減。米国子会社のeディスカバリ支援事業からの撤退による売上減少
- 国内においては、第三者委員会を含む調査ニーズの高まりを受け、デジタル・フォレンジック事業分野を中心に堅調に推移

売上高

(百万円)

■ リーガルテックAI分野



リスクマネジメント事業 経済安全保障分野 分野別売上高

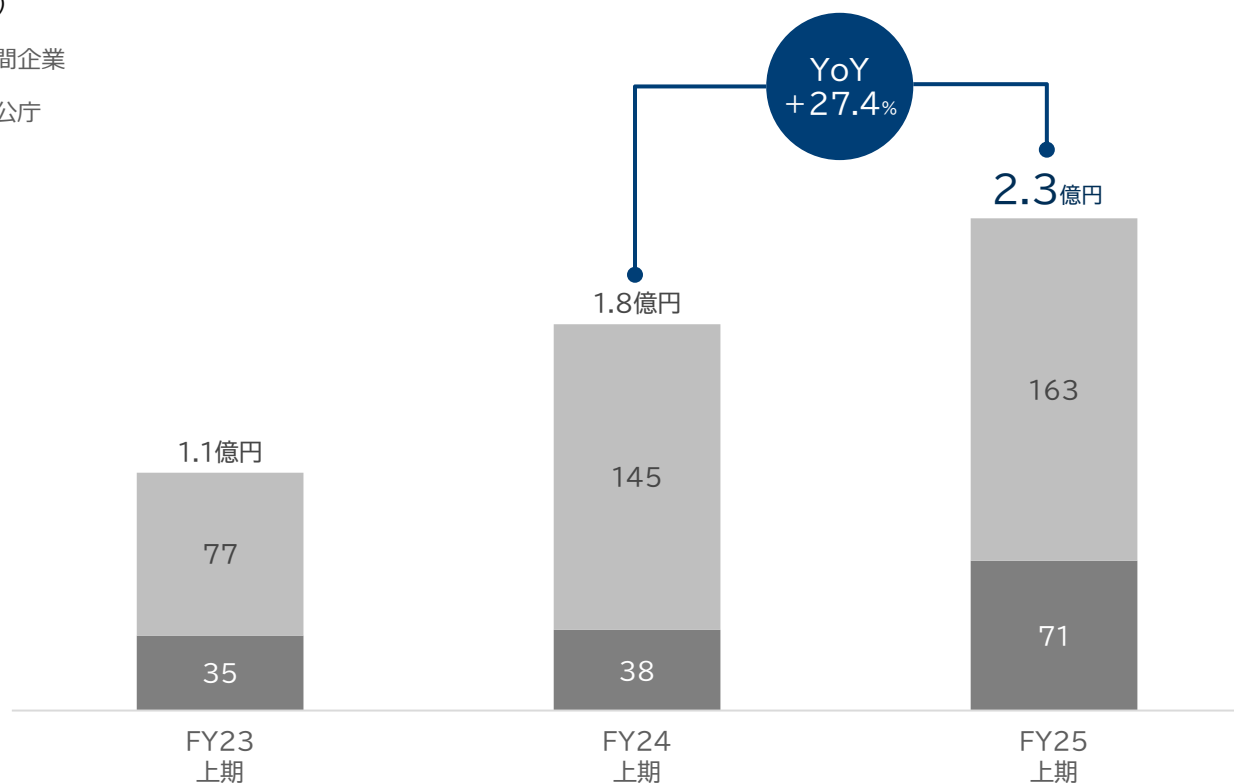
- 売上高は前年同期比27.4%増と大幅増収。官公庁向けは前年同期比1.9倍
- 研究インテグリティ・セキュリティ分野におけるデータ基盤構築により大幅な増収
- 地政学リスクの高まりから依然として需要は旺盛であるため、金属サプライチェーン・制裁リスト等の特定テーマに対する解析及び対策支援コンサルティングを通じた収益拡大に注力

売上高

(百万円)

■ 民間企業

■ 官公庁



04 DX事業

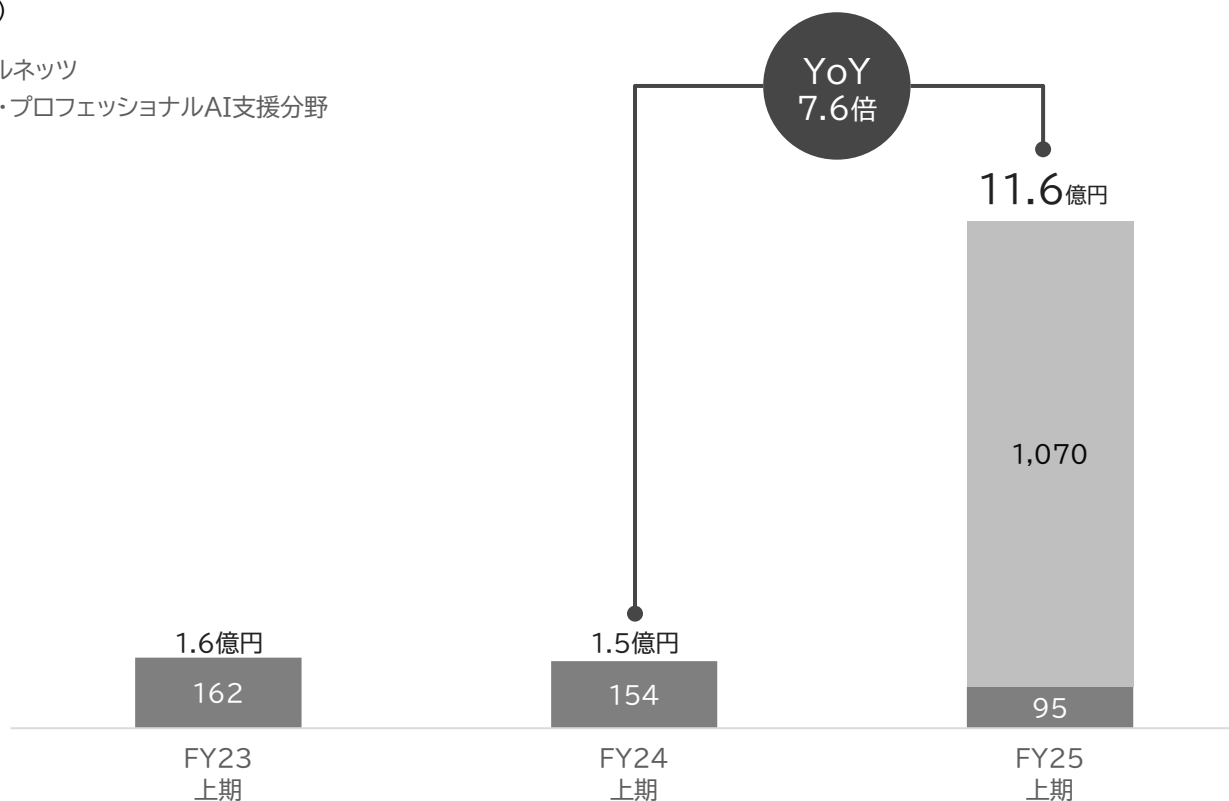
DX事業 売上高

- 2025年4月にアルネッツを子会社化し、BI・プロフェッショナル支援分野と合わせてDX事業として独立したセグメントへ再編
- アルネッツが提供するソリューションを通じて、企業内に分散するデータの統合及びデジタル化を実現し、企業のDX推進のための基盤を整備
- FRONTEOのプロフェッショナル支援ソリューションとの組み合わせにより、DX推進の初期段階からAI導入・高度化に至るまで、包括的なDX支援を可能なものとし、DX事業の持続的な成長を目指す

売上高

(百万円)

- アルネッツ
- BI・プロフェッショナルAI支援分野



Appendix

セグメント別財務情報

(百万円)	FY23				FY23 通期	FY24				FY24 通期	FY25	
	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q
ライフサイエンスAI事業												
売上高	28	119	48	423	620	64	75	73	141	354	107	166
AI創薬分野	26	20	40	24	111	15	17	27	63	122	64	120
AI医療機器分野・その他	1	99	8	399	509	48	58	46	78	231	42	45
営業利益	▲ 162	▲ 116	▲ 111	211	▲ 178	▲ 64	▲ 57	▲ 72	▲ 37	▲ 231	▲ 137	▲ 78
リスクマネジメント事業												
売上高	1,378	1,759	1,558	1,618	6,315	1,458	1,392	1,397	1,125	5,374	966	969
BI・コンプライアンス支援分野	342	568	254	256	1,421	353	301	426	375	1,457	357	251
リーガルテックAI分野	1,012	1,100	1,209	1,254	4,575	1,030	980	834	645	3,491	511	580
経済安全保障分野	22	90	94	107	316	74	110	136	104	425	96	138
官公庁	2	33	56	58	151	7	30	38	27	104	15	56
民間企業	20	57	38	48	164	66	79	98	76	321	81	82
営業利益	▲ 407	92	▲ 11	235	▲ 91	200	178	193	86	659	▲ 7	156
DX事業												
売上高	66	95	122	154	439	58	95	113	103	370	472	693
BI・プロフェッショナル支援分野	66	95	122	154	439	58	95	113	103	370	50	45
アルネット・DX内製化支援、システム開発分野	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	422	647
営業利益	▲ 2	38	1	47	84	14	18	37	28	99	56	4

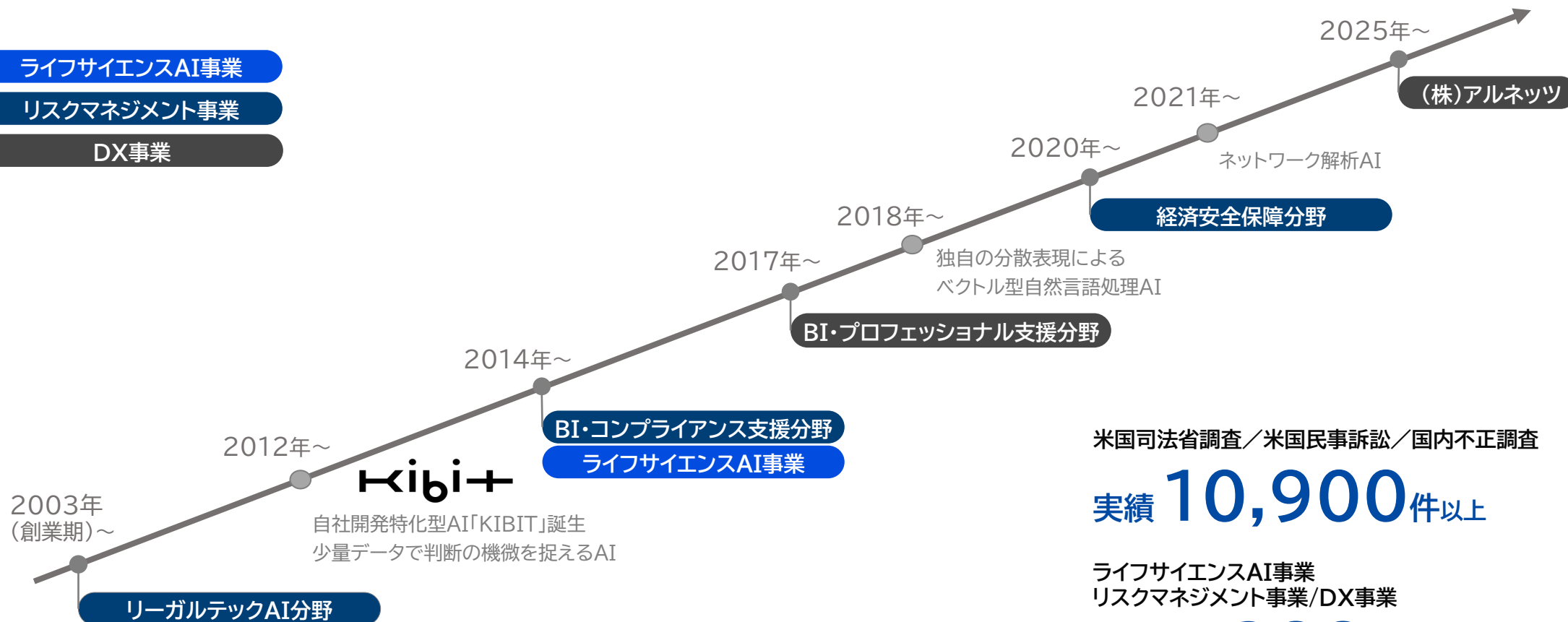
会社名:	株式会社FRONTEO
上場証券取引所:	東京証券取引所グロース市場(証券コード:2158)
代表取締役社長:	守本 正宏
設立年月日:	2003年8月8日
資本金:	901,372千円(2025年9月30日時点)
従業員数(連結):	271人(2025年9月30日時点)
事業内容:	<p>自社開発の特化型AI「KIBIT」の提供を通じた、社会課題と向き合う各分野の専門家の判断支援 (ライフサイエンスAI事業 / リスクマネジメント事業<ビジネスインテリジェンス・コンプライアンス支援分野 / リーガルテックAI分野 / 経済安全保障分野> / DX事業<ビジネスインテリジェンス・プロフェッショナル支援分野 / 株式会社アルネット・DX内製化支援、システム開発分野>)</p>
主要取引先:	<p>民間企業(化学・機械・教育・金融・建設・小売・自動車・商社・情報通信・食品・製薬・電子部品・電力・保険など) 官公庁(法執行機関・各種監視委員会)、国内外法律事務所、医療機関</p>

Global Offices



特化型AI「KIBIT」を基軸とした当社事業の変遷と実績

2012年の「KIBIT」誕生以降、事業領域の拡大及び課題の多様化に合わせた技術進化を継続



米国司法省調査／米国民事訴訟／国内不正調査

実績 **10,900**件以上

ライフサイエンスAI事業
リスクマネジメント事業/DX事業

導入社数 **388**社※

※ 2025年9月30日時点 ※各製品・サービスの累計導入実績

大手企業を中心に導入

金融機関



製造業



製薬企業



サービス業



大学・研究機関



* 2025年10月1日時点 一部掲載、順不同

自社開発の特化型AI「KIBIT」の提供を通じて、日夜社会課題と向き合う各分野の専門家を科学的に支援



「KIBIT」の特徴

- 自然言語処理、ネットワーク解析に利用可能な軽量・高速・高性能な独自開発AI
- 省電力で環境負荷の小さいGreen microAI
- 少量の教師データでも性能を発揮する独自アルゴリズム搭載
- 判断根拠を直感的にビジュアライズ
- 世界で87件の有効特許登録 (2025年9月30日時点)

Green microAI

数学的アプローチで開発された、軽くて高性能なAI

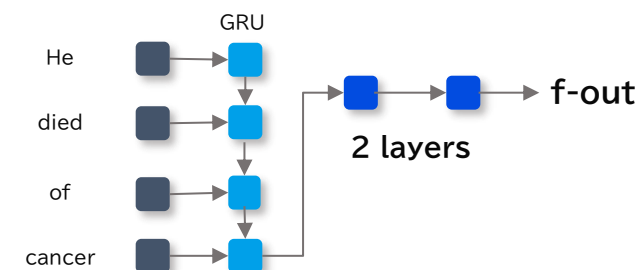


※1 Energy and Policy Considerations for Deep Learning in NLP, College of Information and Computer Sciences University of Massachusetts Amherst (Jun 2019) から抜粋

※2 日本のCO2排出量及び日本の人口からFRONTEO作成 ※3 ※1の論文と同様の計算方法により、FRONTEO作成

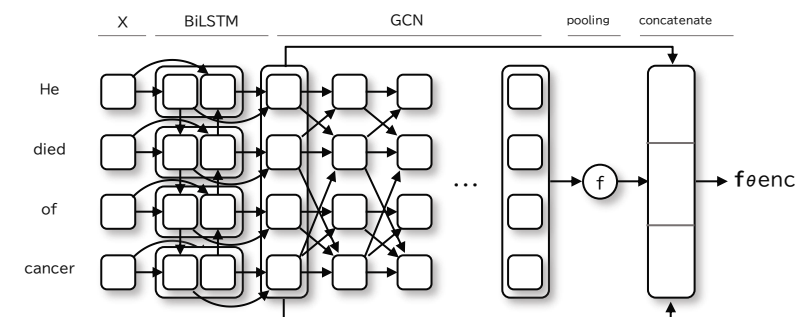
KiBi+ モデル

400分の1の構造



GCEモデル

4×100 layers



設計思想の違い

Kibi+

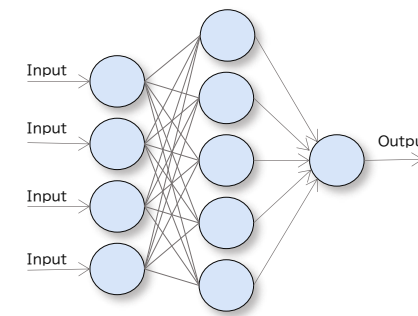
人間の子供が新しい言葉を学ぶ過程
人が思考を発展させる過程



人の学び、思考過程を創造する

一般的なAI

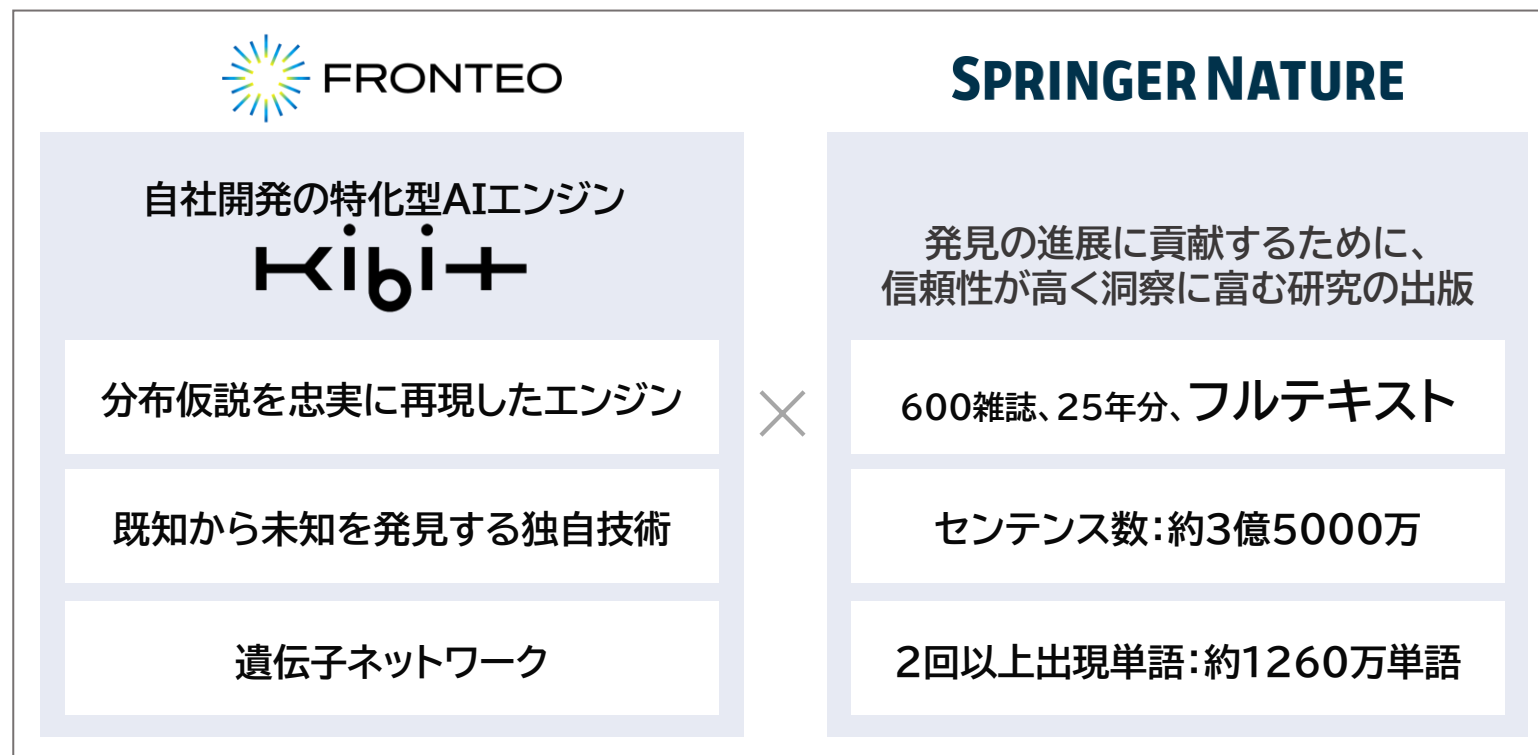
人間の脳の神経回路網を数式的なモデルで表現



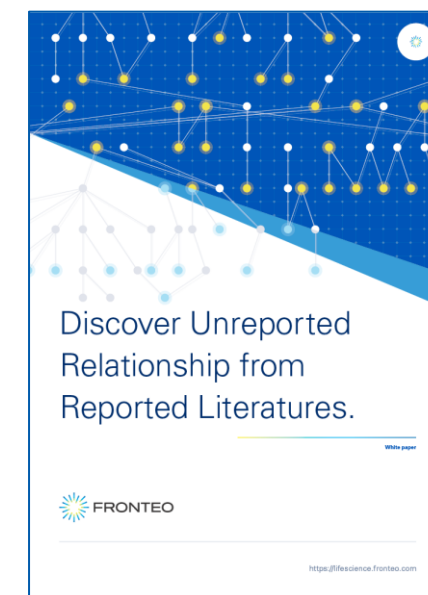
脳(神経ネットワーク)を創造する

特化型AI「KIBIT」がもたらす画期的な創薬アプローチに関するホワイトペーパーを公開

- | 既知の文献情報から未知の関連性を発見する独自技術を活用した標的探索やドラッグリポジショニング等を支援するAI創薬支援サービス「Drug Discovery AI Factory (DDAIF)」を推進
- | KIBITが2022年までのシュプリンガーネイチャー掲載文献から予測した未知の創薬標的について、2024年の新しい文献で疾患と遺伝子の関連性が明らかになる



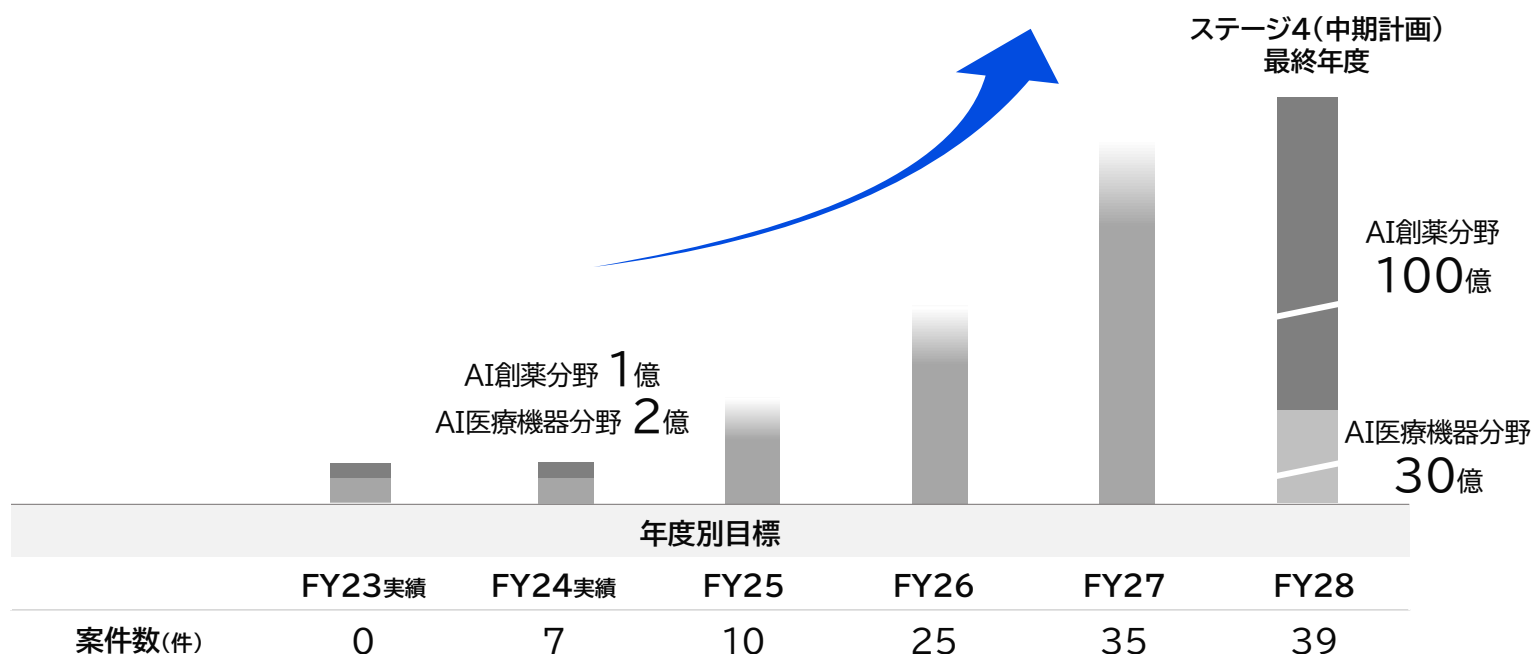
ホワイトペーパー



URL: https://lifescience.fronteo.com/documents-contact?doc=dl_lsai_snwhitepaper

ライフサイエンスAI事業 将来性とKPI

- FY28 売上高130億円達成を目指し、DDAIFの共創プロジェクト型案件数をKPIとする
- DDAIFにおける共創プロジェクトにおいては、開発の進捗に応じて受領するマイルストーンフィーを通じた収益化に加え、中長期的には当社独自で探索した分子を製薬会社へ展開することから見込まれる収益も視野に

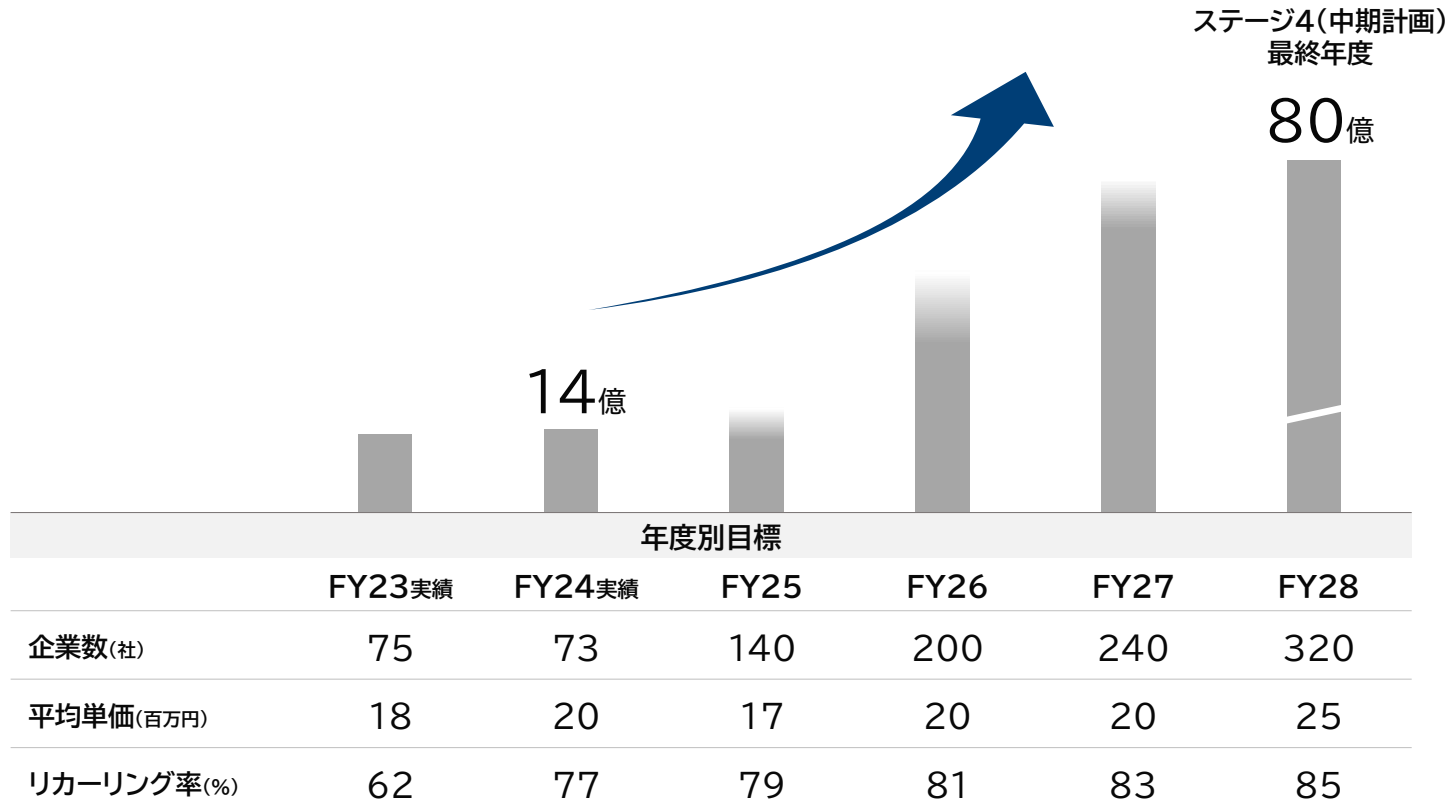


ステージ4達成のための施策

- ✓ FRONTEOの技術基盤と親和性の高い標的探索領域を中心とした共創プロジェクトを基軸とした案件創出
- ✓ バリデーション合格／開発マイルストーンなどFRONTEOが創出した標的候補の妥当性が一定確認できたタイミングでの収益計上することで、収益規模をスケールアップ
- ✓ また、共創プロジェクトで得られた知見や成果及び収益は、新たな技術開発に再投資し標的候補の開発成功率を継続的に向上させていく
- ✓ 高度専門人材(主に薬理研究者及びデータサイエンティスト)の採用に向けた積極投資

リスクマネジメント事業 BI・コンプライアンス支援分野 将来性とKPI

｜ FY28 売上高80億円達成を目指し、契約企業数、平均単価、リカーリング率をKPIに設定

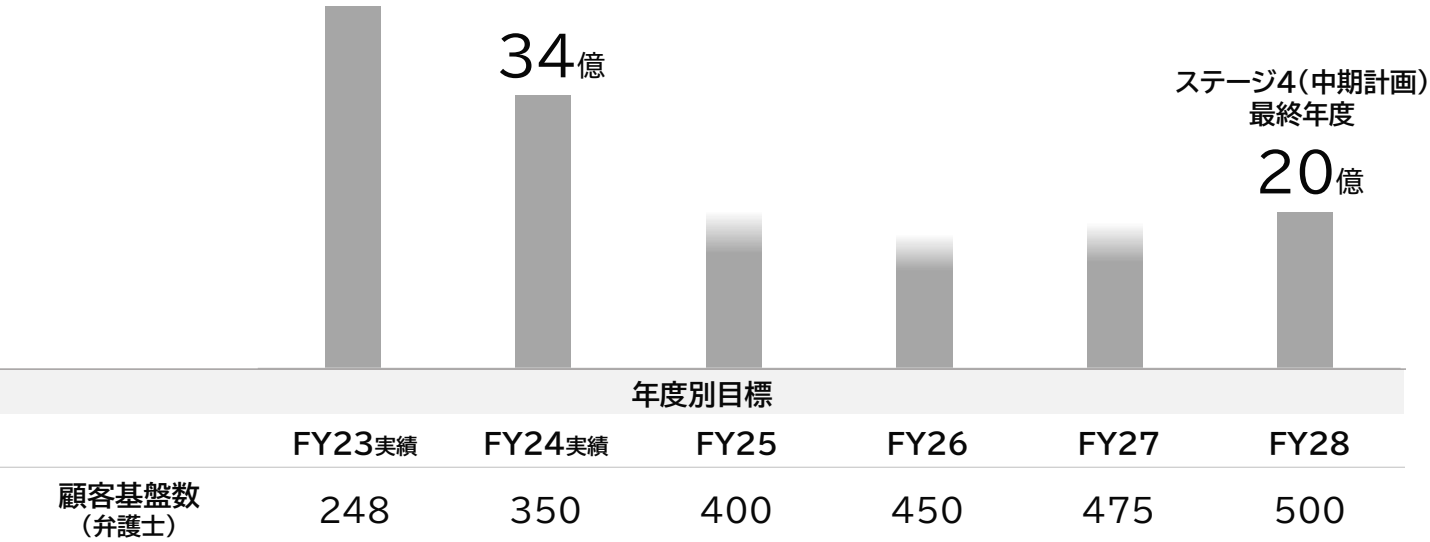


ステージ4達成のための施策

- ✓ FY28までに導入社数320社、1企業あたり単価を25百万円にし、80億円を目指す
- ✓ 営業施策：
 - ・ FY24は既存顧客との取引深耕を軸としたアカウント毎の取引拡大・早期案件獲得に注力
 - ・ FY25以降は既存顧客との取引深耕に加え、大手企業・準大手企業をターゲットにし、1億円規模の大規模プロジェクトの獲得
 - ・ リスクマネジメント事業内での連携強化
従来からの強みを活かし個々のソリューション導入やサービスの提供を行いつつ、各分野の連携を強め、クライアントが直面する「平時」・「有事」、「内部」・「外部」におけるリスク解決を、全体最適の視点でサポート
 - ・ リカーリング率については、FY24で当初目標を上回る77%に達し、ステージ4までにリカーリング率85%を目指す

リスクマネジメント事業 リーガルテックAI分野 将来性とKPI

｜ FY28 売上高20億円維持を目指し、顧客基盤数(弁護士)をKPIに設定

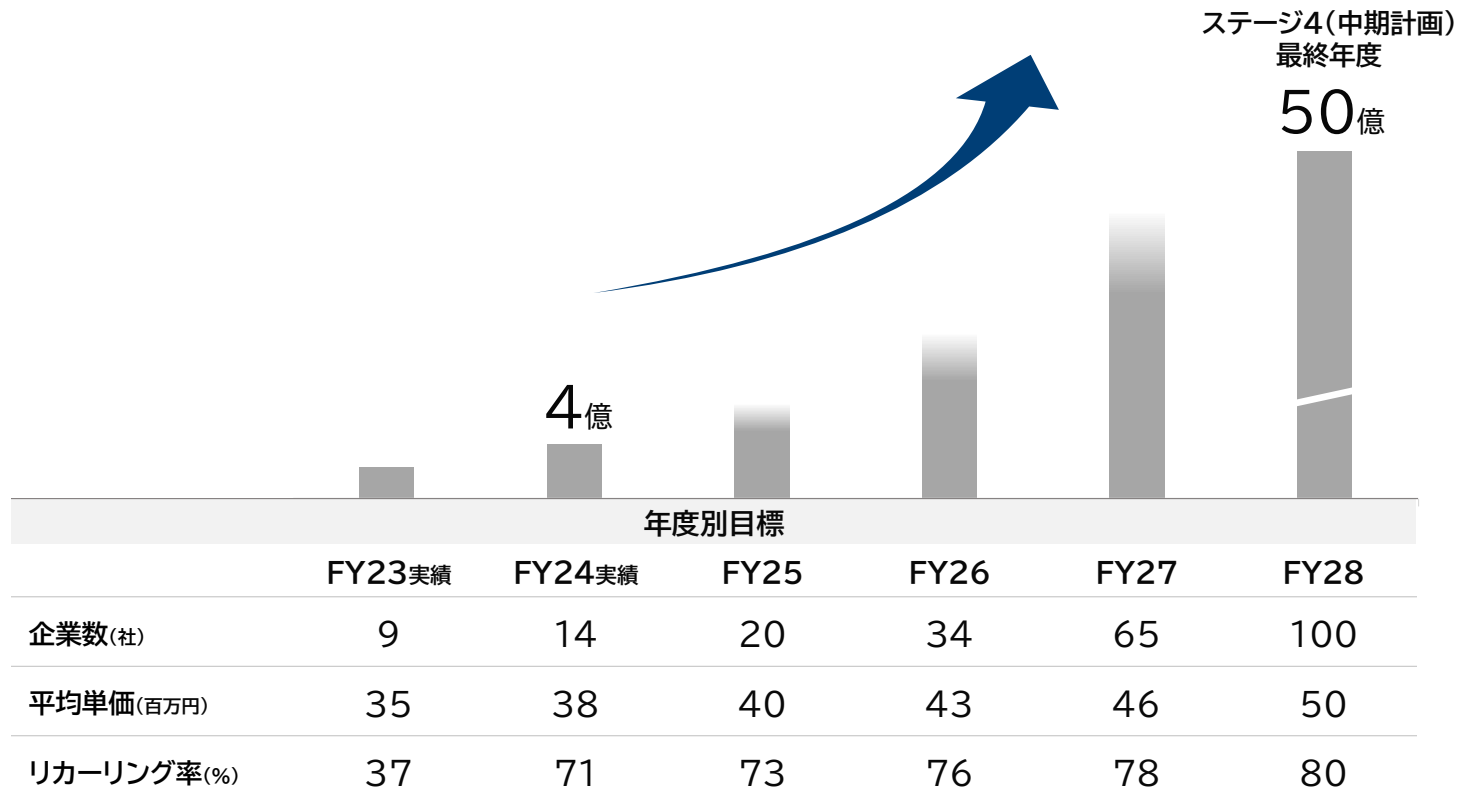


ステージ4達成のための施策

- ✓ FLLP・勉強会・ウェビナーなどを実施し、顧客基盤の構築・強化を継続
- ✓ リスクマネジメント事業内での連携強化
従来からの強みを活かしソリューション導入やサービスの提供を行いつつ、各分野の連携を強め、クライアントが直面する「平時」・「有事」、「内部」・「外部」におけるリスク解決を、全体最適の視点でサポート
- ✓ 収益相関作用が高い組織／オペレーションを維持し、大型案件に左右されない堅実な事業運営

リスクマネジメント事業 経済安全保障分野 将来性とKPI

- FY28 売上高50億円達成を目指し、契約企業数、平均単価、リカーリング率をKPIに設定
- 経済安全保障室を設置している又は設置を検討している上場企業数は19社※
FY24時点で当社ソリューションの導入シェアは70%超と推定



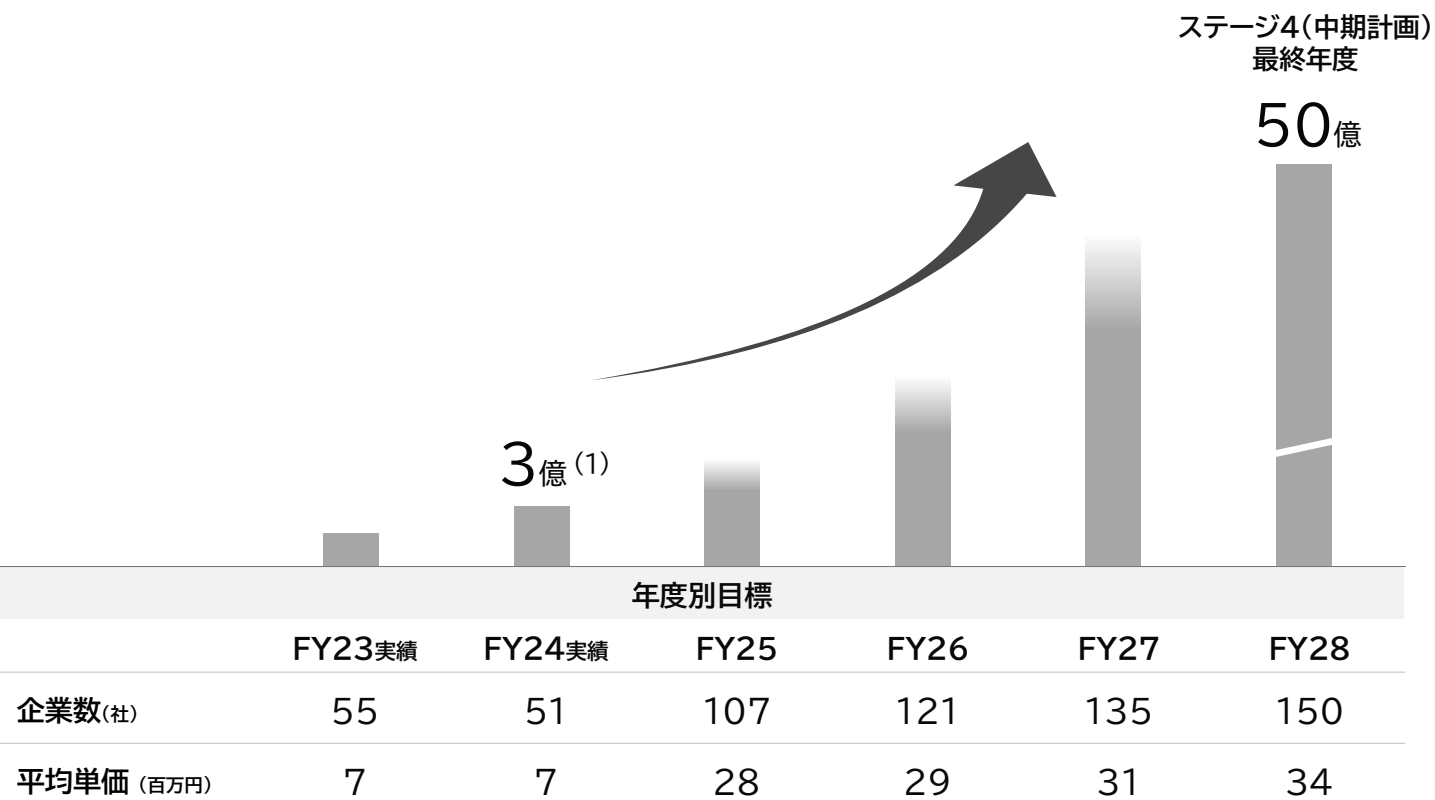
ステージ4達成のための施策

- ✓ アーリーアダプター・官公庁への訴求を継続
- ✓ 営業施策:官公庁や大手企業をターゲットに、包括契約(ライセンス+伴走支援)を前提としたプロジェクトの獲得
- ✓ ソリューションのアップデート:新機能の追加や定期的なアップデートをすることで、付加価値を向上
- ✓ さらなる国内市場活性化の為に、経済安全保障室立ち上げコンサルティングサービスを始動させ、経済安全保障における必要機能階層を定義し、データドリブンな意思決定を行うための総合的なサービス提供を推進していく
- ✓ リスクマネジメント事業内での連携強化
従来からの強みを活かしソリューション導入やサービスの提供を行いつつ、各分野の連携を強め、クライアントが直面する「平時」・「有事」、「内部」・「外部」におけるリスク解決を、全体最適の視点でサポート
- ✓ リカーリング率については、FY24で当初目標を上回る71%に達し、ステージ4までにリカーリング率80%を目指す

※株式会社第一生命経済研究所「経済安全保障から経営を考える」を参考

DX事業 将来性とKPI

| FY28 売上高50億円達成を目指し、契約企業数、平均単価をKPIに設定



ステージ4達成のための施策

- ✓ 子会社化したアルネッツが提供するソリューションを通じた、企業内に分散するデータの統合及びデジタル化を実現し企業のDX推進のための基盤構築と、FRONTEOのプロフェッショナル支援ソリューションを組み合わせることで、DX推進の初期段階からAI導入・高度化に至るまで、包括的な支援を可能なものとし、DX事業の持続的な成長を実現

(1) BI・プロフェッショナル支援分野のみの売上高

FRONTEO Bright Value

記録に埋もれたリスクとチャンスを見逃さないソリューションを提供し、
情報社会のフェアネスを実現します。



お問い合わせ先

株式会社FRONTEO
email: ir_info@fronteo.com

代表取締役社長
守本正宏Xアカウント



将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては、投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を確認された上で、ご利用ください。業界等における記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させて頂くものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。